

第2回 小田滋賞選考経過および授賞式の開催

去る6月21日(日)午後3時30分から、アルカディア市ヶ谷7階白根の間において、第2回小田滋賞授賞式が開催されました。

今回の募集には、13編の応募があり、その内訳は、国際法10編、国際私法1編、国際政治・外交史2編でした。また、応募者には、3名の学部生が含まれていました。

応募論文の審査は、予備審査委員会による第1次審査と選考委員会による選考の2段階に分けられ、予備審査は当分の間国際関係法教育委員会が行うことになりました。予備審査の結果、国際法5編、国際私法1編、国際政治・外交史1編の合計7編が最終選考論文と決定されました。最終選考は、代表理事が選任した、小森光夫教授、櫻田嘉章教授、山本吉宣教授の3会員に委嘱され、厳正な審査を行っていただきました。選考結果に基づき、5月17日に開催された第18回理事会において、次の通り、受賞者が決定されました(詳細は、受賞者一覧を参照)。

最優秀賞 該当無し

優秀賞 高田 陽奈子氏(京都大学大学院 法学研究科):国際法

加藤 紫帆氏(名古屋大学大学院 法学研究科):国際私法

奨励賞 今岡 奏帆氏(東京大学大学院 総合文化研究科):国際法

新谷 里美氏(東京大学大学院 総合文化研究科):国際法

鈴木 孟氏(東京大学大学院 法学政治学研究科):国際法

荒井 誉史氏(早稲田大学大学院 政治学研究科):国際政治・外交史

なお、奨励賞については、評点が同じ論文が複数となったため、4名を受賞者とすることになりました。

授賞式は、受賞者5名と選考委員の小森教授および理事、監事が出席して開催されました。開式の辞の後、坂元茂樹代表理事から、小田滋賞の趣旨と今回の選考の経緯が説明され、続いて、受賞者に表彰状と副賞の目録が授与されました。また、選考委員の小森教授からは受賞論文に対して期待を込めた講評をいただきました。引き続き、優秀賞を受賞した高田陽奈子さんから、受賞者を代表して、受賞の挨拶と今後の抱負を述べていただきました。限られた時間でしたが、式典終了後も、受賞者は出席の先生方と個別に言葉を交わす機会をもつことができ、良い記念となったものと思います。

国際関係法教育委員会

委員長 佐野 寛